

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 8 月 16 日 (2007.8.16)

【公表番号】特表 2003-501110 (P2003-501110A)

【公表日】平成 15 年 1 月 14 日 (2003.1.14)

【出願番号】特願 2001-502873 (P2001-502873)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 35/74 (2006.01)

A 6 1 K 35/76 (2006.01)

A 6 1 K 39/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 7/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/02 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 35/74 A

A 6 1 K 35/76

A 6 1 K 39/09

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 Y

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 31/04

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 7/00

C 1 2 N 15/00 C

C 1 2 N 5/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 8 日 (2007.6.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】免疫原断片を含み、配列識別番号 6 のアミノ酸配列と少なくとも 6 5 % 同一であるアミノ酸配列を持つポリペプチドを含むことを特徴とするワクチン。

【請求項 2】前記アミノ酸配列が配列識別番号 6 のアミノ酸配列と少なくとも 8 0 % 同一であることを特徴とする請求項 1 記載のワクチン。

【請求項 3】前記アミノ酸配列が配列識別番号 6 のアミノ酸配列と少なくとも 9 5 % 同一であることを特徴とする請求項 1 記載のワクチン。

【請求項 4】前記アミノ酸配列が配列識別番号 6 のアミノ酸配列と同一であることを特徴とする請求項 1 記載のワクチン。

【請求項 5】免疫原断片を含み、配列識別番号 8 のアミノ酸配列と少なくとも 6 5

% 同一であるアミノ酸配列を持つポリペプチドを含むことを特徴とするワクチン。

【請求項 6】 前記アミノ酸配列が配列識別番号 8 のアミノ酸配列と少なくとも 80 % 同一であることを特徴とする請求項 5 記載のワクチン。

【請求項 7】 前記アミノ酸配列が配列識別番号 8 のアミノ酸配列と少なくとも 95 % 同一であることを特徴とする請求項 5 記載のワクチン。

【請求項 8】 前記アミノ酸配列が配列識別番号 8 のアミノ酸配列と同一であることを特徴とする請求項 5 記載のワクチン。

【請求項 9】 請求項 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7、及び 8 記載のポリペプチドより成るグループから選択されるポリペプチドで動物を免疫にすることにより產生されることを特徴とする抗血清。

【請求項 10】 請求項 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7、及び 8 に基づくポリペプチドより成るグループから選択されるポリペプチドに特異的に結合することを特徴とする単離された抗体。

【請求項 11】 抗体がモノクローナル抗体であることを特徴とする請求項 10 記載の抗体。

【請求項 12】 請求項 11 記載のモノクローナル抗体を產生することを特徴とする遺伝子操作細胞。

【請求項 13】 配列識別番号 6 のポリペプチドで動物を免疫にすることにより產生されることを特徴とする抗血清。

【請求項 14】 配列識別番号 8 のポリペプチドで動物を免疫にすることにより產生されることを特徴とする抗血清。

【請求項 15】 請求項 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7、および 8 記載のポリペプチドより成るグループから選択されるポリペプチドに特異的に結合することを特徴とする単離された組換え抗体。

【請求項 16】 a. 請求項 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7、および 8 記載のポリペプチドより成るグループから選択される 1 個またはそれ以上の肺炎連鎖球菌ポリペプチド、および、

b. 薬理許容希釈剤、担体または賦形剤を含むワクチンであって、前記ポリペプチドが連鎖球菌属の生体に対し動物内で防護抗体を引き出すのに有効な量で存在することを特徴とするワクチン。

【請求項 17】 動物内で連鎖球菌属の一員によりもたらされる感染を予防または弱毒化する組成物を調製する方法であって、請求項 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7、および 8 記載のポリペプチドより成るグループから選択されるポリペプチドを薬理許容担体に導入することを含み、前記ポリペプチドが前記感染を予防または弱毒化するのに有効な量で存在することを特徴とする方法。

【請求項 18】 動物内に連鎖球菌属の一員によりもたらされる感染を予防または弱毒化する組成物を調製する方法であって、請求項 10 に基づく抗体を薬理許容担体に導入することを含み、前記抗体が前記感染を予防または弱毒化するのに有効な量で存在することを特徴とする方法。

【請求項 19】 ポリヌクレオチドにより形質転換され、それにより S p 1 2 8 および S p 1 3 0 より成るグループから選択されるポリペプチド、またはその断片を発現する微生物を含むことを特徴とするワクチン。

【請求項 20】 動物内で連鎖球菌属の一員によりもたらされる感染を予防または弱毒化する組成物を調製する方法であって、請求項 19 に基づくワクチンを薬理許容担体に導入することを含み、前記ワクチンが前記感染を予防または弱毒化するのに有効な量で存在することを特徴とする方法。

【請求項 21】 前記形質転換微生物がサルモネラ属、ミコバクテリウム属、連鎖球菌属、ボックスウイルス科およびアデノウイルス科より成るグループから選択されることを特徴とする請求項 19 記載のワクチン。